

月刊セントラル通信

「誰にでも優しいけど誰も特別じゃない」ことで有名なフジ・ソウマが、最近フロントから異動してきた新人調整機に熱心にアプローチしているらしい。その噂を耳にした基地内新聞の敏腕記者CS―055（セントラル所属のセキュリティ部隊の55番）は、噂の調整機に突撃インタビューを決意する。

SE：ヒロインの足音

【足音もなく、ヒロインの背後から忍び夜受付】

【4 背後から】

受付「業務時間終了後に失礼します。
今、少しお時間いただいても？」

【ヒロイン、驚いて飛びのく】

SE：驚きの衣擦れ

SE：足音ストップ

【9】

受付「失礼失礼、驚かせてしまいましたね。

私は識別番号CS―055。

基地における受付業務が主な任務ですが、

業務終了後はこうして

セントラル通信の記者をしております」

【ヒロイン「セントラル通信？」】

1
2 【1 9に近づいて】
3 受付「なんと。基地に来てもう一週間も経つというのに、
4 セントラル通信をご存じない!？」
5
6 【9 元の位置に戻る】
7 受付「では、ご説明しましょう」
8
9 【9を起点にヒロインの周り1週し、セリフ終わりで9に戻る】
10 受付「セントラル通信。
11 それはこの受動喫煙のような情報にあふれた世界で、
12 唯一能動的に得る情報。
13 純粋な知的好奇心でつづられた、文字による記事。
14 そして紙のよる配布。
15 それはあたかも、古代への回帰。
16 あるいは情報のルネサンス。
17 お分かりいただけますか？
18 識別番号CC—27——通称・ニーナさん」
19
20 【ソウマ、ヒロインの前に立つ受付の背後に立つ】
21
22 【9 少し遠めに】
23 ソウマ「おじさんねえ、
24 その説明じゃ何もわかんないと思うよ」
25
26 【9 しやべりながら背後を見る】
27 受付「は！ ソウマさん!？ いつのまに！」
28
29



1 【9】

2 ソウマ「セントラル通信っていうのは、

3 “紙の新聞を基地内で流通させたら面白いんじゃないか”
4 っていう遊びだよ。

5 ニーナちゃんが前にいたフロントでも、

6 昔のラジオを模した音声だけの

7 番組が放送されてたって聞いたけど」

8
9 【ヒロイン「ああ、フロントラジオ」】

10
11 ソウマ「そうそれ、フロントラジオ。

12 それが、中央だとセントラル通信ってわけ」

13 で、そのセントラル通信が、

14 ニーナちゃんに何の用？」

15
16 【9 ソウマを見ながら】

17 受付「ソウマさん……

18 あなたは私よりはるかに階級が上の、

19 本来ならこうして言葉を交わすことも

20 おこがましいほどの存在です。

21 ですが、我々はつかんでしまったのですよ。

22 あなたがニーナさんの尻を

23 追いかけてまわしているという情報を！」

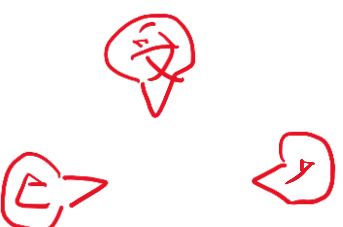
24
25 【9 受付見ながら】

26 ソウマ「ん……？」

27 ああそうだね。それが？」

28

29



1 【9 ソウマを見ながら】

2 受付「おわかりでない！ お分かりでないですね？

3 これはセントラル的には大事件なんですよ！

4 このセントラルで何年も連続で「お兄ちゃんにしたい男ナンバー1」を

5 取り続け、ここ二年では「お父さんにしたい男」ナンバー1に

6 ぶっちぎりの得票数で君臨している、あのフジ・ソウマが！

7 告白してくるすべての男女を

8 〃君だけ特別扱いできないけど、いい？”と言つて

9 泣かせているあのフジ・ソウマが！

10 権力勾配著しい年下の新人調整機にご執心とは！」

12 【9 ヒロインを見ながら】

13 ソウマ「じゃあ今ニーナちゃんの頬にキスとかしたら、

14 その写真がセントラル通信の一面にのっちゃうの？」

16 【受付君、ヒロインとソウマを交互に見た後、ヒロインにぐつと身を乗り出す】

18 受付「無論載ります。当然載せます！

19 やってくださいるのですか？ 我々の知的好奇心のために。

20 【次のセリフの終わりで尻をけ飛ばされる】

21 さらにこの後、お二人に独占インタビューなど

22 させていただいてもぎゃん!？」

24 SE:尻を蹴る音

26 【9 ヒロインに背を向けて】

27 受付「何ですか!？」

28 誰が突然私の尻に暴力を!？」



1 【9 受付を見て】

2 ウェル「ああ、失礼。

3 道の真ん中で大騒ぎしていた邪魔だったので、
4 まさか知性のある生物とは思いませんでした。
5 よもやこの基地の職員だったとは」

7 【16 ウェルナーを見て】

8 ソウマ「あ、ウェルナー。」

9 今ねえ、僕とニーナちゃんのベロチューショットを
10 新聞の一面に載せようかって話してたんだ」
11

12 【ヒロイン「断るつもりでしたよ、もちろん」】
13

14 【16 ヒロインを見て】

15 ソウマ「え!?! 断る気だったの!?!」
16

17 【9 ソウマを見て】

18 ウェル「当たり前でしょう。

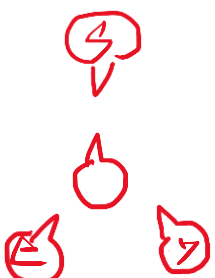
19 ソウマ……あなたは全くわかっていない。
20 この女の騷り方というものを」
21

22 ソウマ「別に騷ろうと思ってるわけじゃないんだけど」
23

24 ウェル「だからわかってないと言っんです。
25 ニーナ。こちらへ」
26

27 【ヒロイン、ウェルナーの前に五ドル】
28

29 SE:ヒロインの足音【1】



1 ウェル「ニーナ、お手」

2
3 【ヒロイン「????」】

4
5 ウェル「察しが悪いですね。

6 私がお手と言ったら、あなたはお手をするんです。

7 躡けられた犬のように。

8 それともソウマとキスしろと命じてほしいんですか？」

9
10 【ヒロイン、従う】

11
12 ウェル「よろしい。ではお座り」

13
14 【ヒロイン、従う】

15
16 ウェル「ふせ。転がって腹を出しなさい」

17
18 【ヒロイン、従う】

19
20 【14】

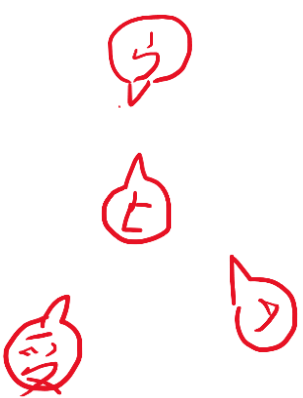
21 ソウマ「うーわすごい。最初のお手以降躊躇ゼロ」

22
23 【12】

24 受付「う、嘘でしょう……？」

25 どうしてこんな屈辱的な命令に

26 むしろ任務に赴く戦士のような表情で……！」



1 【14】

2 ソウマ「ていうか僕とのキスってこれやるよりハードル高い扱いなの？
3 傷つくな……でも気持ちいい」

4
5 【12 ソウマを見て】

6 受付「ソウマさん、今気持ちいいって言いました？」

7
8 ソウマ「あつは。記事にしていよ」

9
10 【1 受付を見て】

11 ウェル「さ、写真を撮りたければどうぞ。

12 この基地の全員に、この女がいか
13 私に忠誠を誓っているかを知らしめるといい」

14
15 【12】

16 受付「い、いやだ……！

17 神聖なセントラル通信が羞恥プレイの道具にされる！」

18
19 ウェル「なんなら服も脱がせましょうか？」

20
21 【12 叫びながら背を向けて走り去る】

22 受付「いやだー！」

23
24 S E : 逃げ出す足音

25
26 ソウマ「あーあ。かわいそ」

27
28 ウェル「ふん。次の一面が楽しみですねえ。ニーナ」

29 おしまい